

# 地域連携NEWS



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター  
TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

医療サービス推進課医療連携室  
Vol.59 2015年11月発行

〒173-0015

東京都板橋区栄町35番2号

TEL03(3964)1141(代表)

FAX03(3964)1982(代表)

## 緩和ケア内科のご紹介



緩和ケア内科部長  
齊藤 英一

「いつでもどこでもだれにでも」緩和ケアが届けられたらいいと思います。痛みなどの苦痛がなく過ごす、自分の望む過ごし方をする、それは大袈裟な言葉かも知れませんが基本的な人権だと思うのです。

日本の緩和ケアはおもにがんを中心に進んできました。保険制度からも緩和ケア病棟で過ごすことができるのはがん患者さんが中心です。痛みや息苦しさ、また気持ちのつらさは、いのちを脅かすあらゆるご病気で起こることですから、苦しんでいるすべての方に緩和ケアを届けたいと思っています。でも緩和ケア病棟にはおもにがん患者さんしか(すら)入院できない、そこに私たちの悩みもあります。

健康長寿医療センターの緩和ケア病棟はがん患者さんで抗がん治療をしておらず、病気によるなんらかの苦痛がおありの方を受け入れています。ご入院の時期やご入院される方は様々です。緩和ケア病棟やホスピスと聴くと「終の棲み家」と考えられる方も少

なくありませんが、例えばつらい症状を和らげるために1~2週間入院しご自宅に帰られる方もいらっしゃいます。また変化していく体や症状に合わせて、ご自宅で過ごすための準備を入院中に整えるお手伝いも緩和ケア病棟の働きだと思っています。

そうは言ってもご自宅で過ごすことが難しくなってご入院される方の割合がいちばん多いでしょうか。「緩和ケア病棟にはいつ頃入院するのがいいの?」とよく尋ねられますが、それぞれだと思っています。ギリギリまで家で過ごしたいと仰る方が多いですね。「ギリギリって?」と逆に私からお尋ねすると、すこし間を置いて「自分のことが自分でできなくなったら」と答えられます。病状が進んでご自身の変化を感じている方に多いでしょうか。「痛くなったら」と仰る方もいます。痛みがある日突然に襲ってくることもないわけではありませんが、「突然激しい痛みが襲うことはそうは多くない」とお伝えし、ご自宅で過ごすことが十分可能だったり痛みへの不安が強い方には、緩和ケア外来に通院して頂きながら、痛みを和らげたり、これからについて相談を重ねたりしています。そんなことも自分たちの仕事だと思っています。



病室



家族控室



緩和ケア病棟庭園



### ~医療連携室直通電話のご案内~

医療連携室直通: 03-3579-6963 (平日9:00~17:00)  
代表電話: 03-3964-1141 内線1139~1142でも承ります。

医療連携室では直通電話番号をご用意しております。迅速な対応に努めておりますので是非ご利用下さい。



**予約専用電話**  
(外来予約専用)  
**03(3964)4890**  
(対応時間)  
月~金 9:00~17:00  
当センターは紹介予約制です。ご紹介の際は、紹介状とご予約をお願いいたします。

**検査予約**  
(代表電話番号)  
**03(3964)1141**  
(対応時間)  
月~金 9:00~17:00  
◎CT、MRI、骨密度 (内線2187)  
◎RI (SPECT、PET検査) (内線2154)  
検査科にてスムーズな予約対応を行っております。

**医療連携室**  
医療連携についての問い合わせ (代表電話番号)  
**03(3964)1141**  
(内線: 1139~1142)  
**FAX:03(3964)1392**  
ホームページ:  
<http://www.tmg Hig.jp/>  
(過去の地域連携NEWS、講演会のご案内、医療連携室のご案内はホームページでご覧いただけます。)

●東武東上線「大山」駅下車  
南口・北口より徒歩4分

●都営地下鉄三田線  
「板橋区役所前」駅下車  
A2出口より徒歩11分  
お車で越しの方に駐車場(駐車料無料)も御用意しております。駐車台数に限りがあることを、予めご承知おきください。



# 感染症内科のご紹介



感染症内科部長  
増田 義重

## ノロウイルス感染症について

口からノロウイルスが腸に入って、病気になります。牡蠣の生食などでウイルスが口から入ってから、24～48時間後に、吐き気と嘔吐や下痢が起こります。腹痛や発熱があることもあります。嘔吐や下痢は、大体1～3日位続きます。元気な成人であれば軽くすみます。子供や高齢者の場合は重くなり、脱水のため命にかかわることもあります。吐物や下痢の中には大量のウイルス（便1gあたり1億個）が含まれていますが、少量（100個以下）のウイルスで病気になります。下痢がなおっても便の中にウイルスが残ったりします。またウイルスが腸に入っても病気にならないヒトが3割から半数いて、この人達の便の中にはウイルスがいます。吐物や便の中のウイルスが手について、口から入れば病気になります。このため周囲に病気を広げないようにするのが大変難しい病気です。

インフルエンザの様な予防のためのワクチンや、タミフルの様な治療薬はありません。ノロウイルスは消毒用アルコールが効きにくいので、予防のためには流水と石鹸とで手洗いをしっかりして下さい。手ふきのタオルは共用しないことも大切です。また吐物や便で汚染された環境を清潔にすることが大切です。トイレの便座やドアノブなども汚染されていますので家庭用塩素系漂白剤（ハイターなど）を薄めた液でしっかりと消毒して下さい（薄め方は表を参考にして下さい）。

ノロウイルスは元々沢山の型があり、一度病気になっても別の型のウイルスでまた病気になります。今年の春ぐらいから、今までとは全く違った型のウイルスが見つかり、全国的に広まっていることが分かってきました。この秋から、この新しい型のウイルスの大きな流行があるかもしれません。十分に注意して下さい。

消毒例：ハイター、ブリーチで作る場合

消毒対象	1リットルの水に加えて作る場合に必要な原液の量
便や吐物が付着した床やオムツ等	ペットボトルのキャップ5杯（20ml）
衣服や器具などのつけ置き	ペットボトルのキャップ2杯（10ml）
トイレの便座やドアノブ、手すり、床等	ペットボトルのキャップ1杯（5ml）



# 連携医療機関のご紹介



院長 安尾 信先生

## 〈院長挨拶〉

医新会 医新クリニック 安尾 信先生

医新クリニックは医新会グループの一つとして大山を中心とした地域密着型のクリニックを目指しています。

対象は、現在の場所に移転する前から行っていた血液透析を核に一般外来や訪問看護、MRIを利用した脳ドッグや人間ドッグなどです。血液透析は大学病院、市中病院の医師の協力のもとに行っており、受け入れ可能な約120名の患者さんは近隣の医療機関からの紹介が中心となっています。訪問看護としては現在80人から100人のお世話をしています。

私は消化器外科が専門でしたので上部消化管内視鏡検査、内痔核に対する硬化療法や局所麻酔で行えるような小外科手術も行っています。

外来の機能としては、地域のかかりつけ診療所として、当院を受診された方に対しては疾患の種類にかかわらず（精神科疾患、小児科疾患、婦人科疾患は除きます）どなたでも受け入れることをモットーとし、具合が悪い場合にはとりあえず受診してみようと思って頂けるようなクリニックであることを目標にしています。

中には対処しきれない疾患の場合もありますが、幸い当クリニック周辺には健康長寿医療センターをはじめとして優秀な病院が控えています。そういった専門医療施設に紹介をすることが可能であることは当クリニックにとっても患者さんにとっても大きなメリットです。

高齢化とともに独居の人々が増える事は避けられないため今以上に同センターなどの基幹病院との連携を強め地域住民の健康管理を担っていくつもりでおります。

**医新クリニック** 〒173-0023 東京都板橋区大山町23-1 大山クリニックビル

TEL:03-5995-5100 FAX:03-5995-5104

**診療科**：内科・外科・消化器科（胃腸科）・循環器科・整形外科  
形成外科・泌尿器科・こう門科・皮膚科・性病科

**休診日**：日曜日、祝祭日

**診療時間**：午前9時～12時30分

月・水・金：午後15時～18時30分 火・木：15時～16時30分

